

学 園 報

No.38

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>

富山国際大学付属高等学校

URL <http://www.tuins-h.ed.jp>富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/>

富山短期大学付属みどり野幼稚園

URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

春の叙勲



理事長

金岡 祐一

一科学徒として北海道大学教授 25 年間は、専門の Chemical Biology (パイオニアの一人) の研究はもとより、国際学会発表、海外研究者との交流等、常時欧米をかけ廻り、存分に働かせていただきました。しかし思えば当然の専門上の仕事を自分なりに務めただけであり、それがもし叙勲に値するというのであれば、過分の光栄としてお受けいたしましょう。

私は北アルプス立山連峰をはるかに望む富山市郊外に産まれた田舎者です。生家は「薬屋」で、横庭の一部にはトロッコ、後庭には小さい製粉工場が終日動いていました (今は富山県民会館分館の金岡邸)。祖父は金沢薬学専門学校、父は東京大学薬学科卒業で、富山薬学専門学校教授、ドイツ留学を経てテイカ製薬(株)を創立。このような「とやまの薬屋の息子」であった私は、旧制富山高校を卒業後、自然な流れで東京大学薬学科へ進学しました。大学院を経て北海道大学医学部薬学科講師、一年後助教授、昭和 41 年に教授、そして 25 年。薬学部長、触媒化学研究センター長等を務め、この間、昭和 34～36 年に留学したアメリカ・NIH (国立健康研究所) で日本特有の狭い専門家根性を叩き直され、以来、タテワリの日本流を捨てヨコワリへ。「ブレイクスルーは学際研究から」が、私の一生の信条となりました。「タテワリは

常に不毛への道」(金岡の法則)。現役時は私なりに仕事をした、と思います。例えば私が編成した日本チームが Na チャンネル研究で世界制覇。これらの研究成果は、「Science, The Endless Frontier」ファルマシア Vol.42 No.7 (2006) に総括しました。

退官、帰郷後すでに 20 余年。学校法人富山国際学園、テイカ製薬(株)、共に個人的事情から関わらせていただけてきました。富山の皆様には「県へ帰ってきた男」として大変お世話になっていることを、心から感謝します。

今さら何を、といわれるでしょうが、そもそも叙勲とは何か。賞状はこの締め切りまではまだいただけないが、総理大臣発令でしょう。従ってある分野における貢献としての叙勲で、有難くそれを受けるということは、あらためて私も国民の一人として、国益に沿う行為を少しはしたことになるのかと思います。叙勲は、望むのではなく、授かるものなので、当局におかれては、今後も一層検討を続け、適切な叙勲候補者選定につとめていただきたいというのが、私の希望でありこの小文の結論です。

感謝と共に。

CONTENTS

- 春の叙勲 理事長 金岡 祐一 1
- 特集1 富山国際学園の国際化教育 2～3
- 特集2 メディテック部、統計解析コンクールで
大学生に勝ち最優秀賞
..... 4

- トピックス 金岡理事長 平成28年春の叙勲について 5
- 平成28年度入試状況・平成27年度進路状況 5
- 学園退職者・新任者一覧 5
- 平成28年度予算概要 6～7
- 学園NEWS 8

富山国際大学の取り組み

富山国際大学

国際交流センター長 才田 春夫

富山国際大学の国際化教育は、大学の基本理念である「国際的視野に立脚した人間形成」「時代の潮流に対応できる人材の育成」の精神が脈々と受け継がれ、語学教育に加え異文化理解や海外での活動を重視したカリキュラムへと進化しています。

地域社会は確実に変化しており、地域経済を大きく担う中小企業や農業生産者も海外展開に力を入れる時代になりました。また、小学校教育も大きく変わり、平成23年度に5、6年生の英語必修化が始まり、平成32年度には小学3、4年生にまで広げられます。

社会では、地域社会のグローバル化への貢献やグローバル社会で活躍できる人材の育成、社会ニーズに応じた教育の充実が求められています。これに対して地(知)の拠点大学である本学では、語学教育の充実化に加えて留学や海外での活動体験を重視した教育環境の整備を行っています。

1. 語学教育の強化と多様化

(授業以外での語学教育支援)

- ・現代社会学部：平成28年度から「外国語特講（英語、中国語、韓国語、ロシア語）」及び「フランス語」のカリキュラム化を行い、平成29年度には「TOEIC」科目を新たに設けます。
- ・子ども育成学部：平成27年度のカリキュラム改正を機に、国際化対応科目の強化を図り、必須科目「英語Ⅰ、Ⅱ」に加え「世界の言語と文化」「子どもと国際交流」「異文化研修」などのカリキュラム化を行いました。
- ・両学部共通の取り組みとしてカリキュラム外の語学教育支援にも力を入れており、クラウド型のTOEIC対策講座を平成27年度に開講し、平成28年度には更に「TOEIC学修講座」「TOEIC受験前集中講座（5日間）」、英語運用能力を高めるための「TUINS English Camp」などを開講します。さらに、東黒牧キャンパスでは、学生が英語に親しみつつ楽しく学ぶ場として厚生棟の一角にEnglish Caféを設置しています。



English Caféでの歓談

2. グローバルキャンパス

(協定校拡大で留学や海外体験のチャンスが増える)

- ・海外での学びの機会を増やすため、協定校の拡大を行っています。英語圏では新たにカナダのレスブリッジ大学が加わり、留学や異文化研修など多様な取り組みを予定しています。平成28年度に韓国の大邱大学

校、中国の遼寧師範大学と複数学位プログラム協定の締結を行いました。今後も協定校を拡大し、学生の多様なニーズに応えていく予定です。

- ・現代社会学部の新たな取り組みとして、専門分野の学びや学生交流を海外で行う「グローバルキャンパスでの専門研修」が平成28年度から始まっています。



大邱大学校内に富山国際大学協力センターを設立

3. 海外インターンシップ

- ・実践的な学びの一つとして、海外での就業体験を行っています。大学コンソーシアム富山が行っている2週間のプログラムに加え、本学独自のプログラムを中国とタイで実施しています。本学のプログラムは3週間で、協定校での語学や文化理解授業を受講してから企業でのインターンシップを行うものです。毎年複数の学生が参加しており、受講者からも受入れ先企業からも評価の高いプログラムとなっています。



中国南通市内での海外インターンシップ

富山国際大学付属高等学校の取り組み

富山国際大学付属高等学校
校長 倉田 延邦

第Ⅰ期(H4年～H15年)

「国際英語コース」の設置

平成4年の男女共学化にあわせて、「国際英語コース」を設置。「国際英語コース」を全体の牽引役とし、校名にふさわしい校風作りに向けて、海外研修、長期留学、留学生受け入れ、姉妹校提携、海外大学進学を大胆に進めました。

第Ⅱ期(H16～H21年)

「セルハイ(Super English Language High School)」認定

第Ⅰ期に進めてきた国際化が実を結び、文部科学省から英語教育研究指定校、セルハイ(1期3年、2期連続の指定)の認定を受けました。広い意味での国際化という目標を、「国際化＝英語教育の充実」という具体的目標に絞り、研究を深化させました。英語教育で実績を積み重ね、県内の中学生や教師の間で「英語の国際」として認知度を高めたことが、志願者増の原動力となりました。

第Ⅲ期(H22～H24)

「ポストセルハイ」

独自の英語教育を推し進めた第Ⅱ期の6年間に、各種英語コンテスト、英語検定、国際系学部や海外大学への進学等で著しい成果を上げました。さらなる高みを目指すため、平成22年8月にユネスコスクールに認定されたことを機会に、ユネスコの教育理念であるESD(Education for Sustainable Development＝持続可能な発展教育)の普及を新たな目標として研究を始めました。

第Ⅳ期(H25～)

「ESD＝持続発展教育とICT

(Information Communication Technology)」

活発な実践活動を通して、本校独自のESD活動も具体性を帯びてきました。「まずは5分後の未来のために、地球に良いことをしよう。」の合言葉のもと、全教員、全生徒が一丸となり具体的目標作りを始めました。新しい目標は、国際化を標榜してきた本校ならではのものとし、地球の持続的発展のために世界の高校生が国際交流を通じ、共通の課題解決に取り組むこととしました。

そのために、まず近隣諸国のユネスコスクールとの姉妹校提携を進めています。平成26年にLu He High School(北京)と、平成28年にはRose Garden High School(バンコク)と提携し、現在は韓国の高校と交渉を進めています。ユネスコスクール以外でも、英語を母国語とする国の学校との提携も進めています。現在ニュージーランド1校、オーストラリア1校と姉妹校協定を結び相互訪問を実施しています。2016年にUSA2校と提携予定で、うちインディアナ州のチェスタトン高校とはすでに相互訪問を開始しています。

また、常に世界と繋がるために「英語」の他に、世界共通言語と同等の働きをするツールである「タブレット端末」を全校生徒が所持し、そしていつでも活用できるよう、ICTの環境整備を4年間かけて行ってきました。「英語」と「タブレット」という二つの世界共通言語を“流暢”に使いこなし、海外の姉妹校の生徒とオンラインで繋がります。

最後に

ユネスコスクールの生徒として、そして地球の未来を担う若者として、世界の若者たちと地球の持続発展のために問題意識を共有し、その解決のために共同作業を行うことができる、そんな生徒を育てていきたいです。



3月 オーストラリアの姉妹校ビショップ・ドルーイットカレッジを訪問

メディアテク部、統計解析コンクールで 大学生に勝ち最優秀賞

富山国際大学附属高等学校

データ分析をしながら課題の発見と解決策を競い合う「第4回データビジネス創造コンテスト」(慶應義塾大学SFC研究所データビジネス創造・ラボ主催)が3月26日に行われ、メディア・テクノロジー部が最優秀賞を受賞しました。高校から大学・大学院まで、60校95チームが競い合うなか、アプローチ方法、仮説の組み立て方、分析手法、プレゼン力などが高く評価されました。2位の優秀賞は東京大学と早稲田大学の連合チームでした。

与えられたテーマは「データと創造力で子育てに笑顔を」。本校チームは、父親と娘の関係に焦点を当て、「難しい年頃の娘を持つお父さんのための子育てサバイバル術」というタイトルで発表しました。参加したのは、北川紗江さん、内山滯佳さん、水間彩音さん、杉林花音さん、山崎穂乃香さん、鳥倉愛さん、山下紘依さんの女子生徒7名(全員当時1年生)。iPadやクラウドを実践的に学ぶ「総合的な学習の時間」の集大成として、同コンテストに挑みました。

他のチームが育児期の子供をもつ母親の負担を問題とするなか、「女子生徒は父親との仲が悪い」という実体験にもとづき、父親との関係に注目。子育てに熱心な「育メン」が増えても、父親の子育ては育児期間で息切れし、結局は母親一人が子育てをする「ワンオペ・ママ化」を問題として提起しました。仮説を立証するために、子育て本の書誌データをスクレイピングし、子育ての関心が未就学の時期に偏っていることを発見。さらに、子供時代の写真を持ち寄り、Microsoftの人工知能や機械学習を使って感情分析し、家族写真の枚数と感情の結果(幸福度)

が小学校入学前に集中していることも明らかにしました。

これらを元に、KJ法などを用いて父親と娘の問題を分類・検討し、女子生徒とその父親を対象にアンケートを実施。父親を「好きではない」女子生徒は58.98%と半数以上にのぼり、父親の方は60%が子育ての結果に自信を持ってず、約63%が子供に尊敬されていないと感じているなど、親子関係の問題を明らかにしました。また、「ジョハリの窓」など心理学のアプローチから、お互いの不理解は自己開示の不足にあることも発見しました。さらに、父親が「ワンオペ・ママ」の実態を知るために、ベネッセ次世代育成研究所が実施した調査データを、Power BI、SPSSなど統計解析ソフトを使って分析。56.2%の母親が15時間以上も子供と2人だけで過ごし、25%が立ち話をする相手もないという、孤独でストレスが溜まりやすい現実を統計解析で明らかにしました。

問題解決として、集団が自ら成長し続けるグロース・ハックの仕組みを子育てに導入することを提案。「子育て・家事シェアボード」では、父親が子育てと家事を継続できる仕組みを提案しました。また、誕生日などの記念日をうまく活用して良好な関係を維持する父親向けイベント管理アプリのモックアップも披露しました。表彰式では、審査委員長の同大学環境情報学部学部長の村井純教授から「圧倒的な優位で決まった。データの分析では、例えば感情認識を使って裏づけにしているのは新しく、『ジョハリの窓』など道具立てを使って議論を進めていくところもとてもよかったと思う」との講評をいただきました。



表彰式にて 中央は審査委員長の慶應義塾大学環境情報学部学部長の村井教授

金岡理事長 平成28年春の叙勲について

当学園理事長の金岡祐一氏は、25年にわたり北海道大学教授、薬学部長等を務め、その間薬学の第一人者として、神経細胞膜にある「Naチャンネル」の分子構造を世界で最初に解明するなどの大きな功績を残されました。

また北海道大学退官後は帰郷され、富山短期大学及び富山国際大学の学長を務め、現在も当学園理事長並びに富山県私学振興会理事長として、富山県私学教育の振興・発展にご尽力されています。

このような、薬学教育・研究や、私学教育の振興に果たされた役割と功績が高く評価され、平成28年春の叙勲において、「瑞宝中綬章」を拝受されました。

平成28年度入試状況

大学

(平成28年4月6日現在)(単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	201	198	189	94
子ども育成	80	230	229	188	89
合計	200	431	427	377	183

※現代社会学部の合格者数には、第二志望合格9名を含む

短大

(平成28年4月5日現在)(単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	169	169	103	83
幼児教育	80	160	158	116	88
経営情報	110	167	167	167	115
福祉	60	49	48	55	39
食物栄養専攻	15	15	15	15	15
合計	345	560	557	456	340

※経営情報学科、福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む

高校

(平成28年4月8日現在)(単位:人)

コース	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	215	213	40
特進コース	1クラス	573	572	51
フロンティアコース	6クラス	819	814	228
合計	8クラス	1,607	1,599	319

平成27年度進路状況

(平成28年5月1日現在)(単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	95	83	83	100.0	3
子ども育成	80	73	73	100.0	6
合計	175	156	156	100.0	9

(平成28年5月1日現在)(単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	78	73	73	100.0	1
幼児教育	83	83	83	100.0	0
経営情報	93	90	90	100.0	3
福祉	41	38	38	100.0	1
食物栄養専攻	18	17	17	100.0	0
合計	313	301	301	100.0	5

(平成28年3月31日現在)(単位:人)

大学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	その他	入学者	合格者	卒業生
富山国際大学	12	15	富山短期大学	43	47	専修各種学校	71	81	263
国公立大学	7	7	公立短期大学	0	0	就職	45		
他の私立大学	72	102	他の私立短期大学	8	13	その他	5		
計	91	124	計	51	60	計	121		

平成28年度新入園児童

幼稚園

(平成28年4月8日現在)(単位:人)

	新入園児	在園児	計	男	女
3歳児	30	—	30	14	16
4歳児	0	34	34	17	17
5歳児	0	33	33	15	18
合計	30	67	97	46	51

平成27年度卒園児童

(平成28年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	17	15	32

◆退職者一覧(平成28年3月31日)

- <大学> 鶴山 博之(子ども育成学部教授)
 原 稔(子ども育成学部教授)
 斎藤 敏子(現代社会学部准教授)
 石原 大三(入試センター参事)
 森井 哲男(事務部係長)
- <短大> 守田 律子(食物栄養学科教授)
 飯田 聡(幼児教育学科教授)
 橋本 麻里(幼児教育学科准教授)
- <高校> 松原 澄良(教諭)
 中西 孝則(事務長)

◆新任者一覧(平成28年4月1日付)

- <大学> 秦野るり子(現代社会学部教授)
 佐藤 勝秀(現代社会学部准教授)
 松山 友之(子ども育成学部准教授)
 金子 泰子(子ども育成学部講師)
 清田 尚登(入試センター参事)
 富田 勝人(事務部主事補)
- <短大> 高木 三郎(幼児教育学科教授)
 大森 宏一(幼児教育学科准教授)
 角田 香澄(食物栄養学科講師)
 宮田 佳奈(食物栄養学科主事兼実習助手)
- <高校> 野口 安正(事務長)

平成28年度 予算概要

平成28年度の事業計画及び予算は、去る3月29日の評議員会・理事会において承認されました。

各校の主な事業計画及び予算の特徴は以下のとおりです。

大学

子ども育成学部は若干の増減はあるものの、安定的に入学定員を確保しています。しかし、現代社会学部では定員割れが続いており平成28年度入学生は94名に留まり、大学全体の入学者でも定員割れとなっています。現代社会学部の定員確保は学園の存続にとっても重要な要件となることから、学生募集活動の効果検証等を行い、定員確保を目指すことが重要です。予算では2百万円余りの黒字を見込んでいます。

主な事業としては、平成26年度に策定した3年間を計画期間とする「アクションプラン」の年度計画の実行・検証、平成27年度に文科省より採択された「地(知)の拠点事業(COC+)」の着実な実施による更なる教育改革の推進並びに地域に貢献する人材育成及び地元就職率の向上、国際交流活動強化に伴うグローバル化への対応推進、キャリア支援体制の充実・強化と質の高い就職・高就職率の維持、入学定員確保対策の強化などが挙げられます。

資金収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位：千円)

	平成28年度予算額	平成27年度当初予算額	差異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,899,315	1,879,687	19,628
	手数料収入	36,907	37,285	-378
	寄付金収入	9,640	5,792	3,848
	補助金収入	691,399	614,633	76,766
	資産売却収入	1	1	0
	付随事業・収益事業収入	31,416	78,206	-46,790
	受取利息・配当金収入	10,220	10,220	0
	雑収入	90,045	36,544	53,501
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	464,841	466,991	-2,150
	その他の収入	193,420	218,939	-25,519
	資金収入調整勘定	-593,501	-525,201	-68,300
	前年度繰越支払資金	762,000	876,000	-114,000
	収入の部合計	3,595,703	3,699,097	-103,394
支出の部	人件費支出	1,649,104	1,559,987	89,117
	教育研究経費支出	549,291	577,734	-28,443
	管理経費支出	140,973	131,179	9,794
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	15,980	7,937	8,043
	設備関係支出	92,388	78,188	14,200
	資産運用支出	370,967	446,272	-75,305
	その他の支出	98,500	213,500	-115,000
	[予備費]	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	-132,000	-76,200	-55,800
	次年度繰越支払資金	795,000	745,000	50,000
	支出の部合計	3,595,703	3,699,097	-103,394

短大

短大は、平成26年度入学定員を割り込む危機に直面し、学生募集活動及び入試方法の検証・改革により一旦はこの危機を脱しましたが、平成28年度には再び志願者・入学者が減少に転じました。

志願者動向を把握することが難しい状況にあります。今後も学生募集広報活動等の検証を続け、定員確保に努める必要があります。また収支状況としては、41百万円余りの黒字予算となっています。

主な事業としては、大学と同様に平成27年度から3カ年を計画期間としたアクションプランに基づく年度計画の実行・検証、平成26年度に文科省より採択された「大学教育再生加速プログラム【AP】」の着実な実施による教育改革の推進、教育環境の整備・拡充など学生生活及び学習環境の整備、経済的困窮者への奨学金及び成績優秀者への奨励金制度の創設、入学定員確保に向けた学生募集活動の充実などです。

高校

新校舎完成効果や、英語教育の充実、iPadを利用したICT教育の充実(今年度より全生徒がiPadを利用します)等により生徒数は安定的に入学定員を確保し、35百万円余りの黒字予算となりました。しかし、教員人件費

事業活動収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位：千円)

	科 目	平成28年度予算額	平成27年度当初予算額	差異
教育活動収入	学生生徒等納付金	1,899,315	1,879,687	19,628
	手数料	36,907	37,285	-378
	寄付金	11,342	7,494	3,848
	経常費等補助金	691,399	614,633	76,766
	付随事業収入	31,416	78,206	-46,790
	雑収入	90,045	36,544	53,501
	教育活動収入合計(1)	2,760,424	2,653,850	106,574
	人件費	1,659,104	1,569,987	89,117
	教育研究経費	857,291	882,734	-25,443
	管理経費	143,472	133,179	10,293
徴収不能額等	1	1	0	
教育活動支出合計(2)	2,659,868	2,585,901	73,967	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	100,556	67,949	32,607	
教育活動外収入	受取利息・配当金	10,220	10,220	0
	その他の教育活動外収入	1	1	0
	教育活動外収入合計(4)	10,221	10,221	0
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	10,221	0	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	110,777	78,170	32,607	
特別収入	資産売却差額	1	1	0
	その他の特別収入	4	4	0
	特別収入合計(8)	5	5	0
	資産処分差額	9,300	9,700	-400
その他の特別損失	1	1	1	
特別支出合計(9)	9,301	9,701	-400	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	-9,296	-9,696	400	
【予備費】(11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	85,981	52,974	33,007	
基本金組入額合計(13)	-68,178	-42,635	-25,543	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	17,803	10,339	7,464	
前年度繰越収支差額(15)	-2,789,783	-2,888,724	98,941	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	-2,771,980	-2,878,385	106,405	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,770,650	2,664,076	106,574	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,684,669	2,611,102	73,567	

平成28年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

は11百万円余り増となっており、今後、生徒数の平準化にあわせて適正人数に抑制する必要があります。

主な事業としては、グローバル化に対応した教育の推進、ICT教育の推進、ユネスコスクールアジア地区ネットワークの構築拡大、生徒の安全・安心確保のための施設設備等の整備、生徒の諸活動支援による特色ある教育の推進などです。

幼稚園

通園バス添乗員増員による人件費増や園舎耐震診断費の計上などにより19百万円余りの赤字予算となりました。県内の他園が園児募集に苦戦している中で、本園は多方面から園児を受け入れており、安定的に定員を確保しています。しかし、財務状況としては慢性的な赤字体質が続いており、今後の財務改善策が求められます。

主な事業としては、幼稚園の今後の方向性についての検討継続、園舎耐震診断の実施などです。

学園全体

事業活動収支予算において、事業活動収入合計が2,771百万円（対前年度当初予算比107百万円増・4.0%増）となっています。事業活動支出合計は2,685百万円（同74百万円増・2.8%増）となり、これから基本金組入額を差し引いた当年度収支差額が18百万円の黒字となりました。

資金収支予算において、平成28年度の諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、平成28年度入学生の前受金、平成27年度末の未収入金の見込額等が計上されています。

一方、支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、施設・設備関係支出等が計上されています。その結果、平成28年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の資金として、3,596百万円（同103百万円減・2.8%減）が見込まれています。

学園の財政状況は、単年度予算ベースでは黒字となっています。しかし、呉羽キャンパスでの一連の施設改築（高校校舎改築及び短大校舎改築Ⅰ期工事など）を全て自己資金により実施したため、学園の自己資金は大幅に減少し、中・長期的には学園の財務状況は厳しくなることが予想されます。また、今後、幼稚園や短大Ⅱ期工事等、校舎・園舎の耐震化を検討しなければならないことに加え、大学が開学から25年を経過し、東黒牧キャンパスの老朽化が懸念されます。これらの施設設備投資を全て自己資金で賄うためには、経常収支での黒字化を安定的に継続さ

活動区分	科目	部門	法	人	大	短大	高校	幼稚園	総額
教育活動収支	取事業の活動	学生生徒等納付金		0	790,542	690,541	391,262	26,970	1,899,315
		手数料		0	12,586	15,211	9,075	35	36,907
		寄付金		2	2,101	6,806	1,733	700	11,342
		経常費等補助金		0	215,245	179,373	278,034	18,747	691,399
		付随事業収入		0	11,497	13,429	0	6,490	31,416
	雑収入		200	40,930	47,801	1,114	0	90,045	
	教育活動収入合計(1)			202	1,072,901	953,161	681,218	52,942	2,760,424
	支事業の活動	人件費		35,819	623,733	539,237	415,747	44,568	1,659,104
		教育研究経費		0	362,452	292,636	180,669	21,534	857,291
		管理経費		14,662	56,727	49,700	16,602	5,781	143,472
徴収不能額等			0	1	0	0	0	1	
教育活動支出合計(2)			50,481	1,042,913	881,573	613,018	71,883	2,659,868	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)			△50,279	29,988	71,588	68,200	△18,941	100,556	
教育活動外収支	取事業の活動	受取利息・配当金		10,020	100	100	0	0	10,220
		その他の教育活動外収入		0	0	1	0	0	1
		教育活動外収入合計(4)		10,020	100	101	0	0	10,221
	支事業の活動	借入金等利息		0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)			0	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)			10,020	100	101	0	0	10,221	
経常収支差額(7)=(3)+(6)			△40,259	30,088	71,689	68,200	△18,941	110,777	
特別収支	取事業の活動	資産売却差額		0	0	1	0	0	1
		その他の特別収入		0	0	4	0	0	4
		特別収入合計(8)		0	0	5	0	0	5
	支事業の活動	資産処分差額		0	3,100	5,100	1,100	0	9,300
その他の特別損失			0	0	1	0	0	1	
特別支出合計(9)			0	3,100	5,101	1,100	0	9,301	
特別収支差額(10)=(8)-(9)			0	△3,100	△5,096	△1,100	0	△9,296	
【予備費】(11)			2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)			△42,259	21,988	61,593	64,100	△19,441	85,981	
基本金組入額合計(13)			△310	△19,265	△20,277	△28,326	0	△68,178	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)			△42,569	2,723	41,316	35,774	△19,441	17,803	
前年度繰越収支差額(15)			—	—	—	—	—	△2,789,783	
基本金取崩額(16)			—	—	—	—	—	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)			—	—	—	—	—	△2,771,980	

(参考)

事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	10,222	1,073,001	953,267	681,218	52,942	2,770,650
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	52,481	1,051,013	891,674	617,118	72,383	2,684,669

せ、資金確保に努めなければなりません。そのためには、経費の節減や予算の適正執行・学生生徒等の定員確保はもちろんのこと、外部資金の積極的な獲得に努め、その上で今後の中・長期的な収支見通しを予測し、計画的に施設整備を進めなければなりません。

私学を取り巻く環境が厳しさを増していることは、周知の事実です。富山県においても、中学卒業予定者は、平成30年度には平成27年度より約5%の減となり、さらに平成33年度には約10%もの減となります。大学・短大においては、前述の3年後に影響を受けることとなります。

全国の私学は、それぞれ特色ある教育を目指して、創意工夫を凝らし、学生確保に奮闘しています。本学園も例外ではなく、建学の精神である「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を基本にして、「地域に根ざした学園」としての存在意義を明確にし、存続し続けなければなりません。

そのためには、地域に役立つ人材育成を目指し、学園の持つ知力を地域に還元する努力が必要です。学園が真の「知の拠点」となるよう、教職員一丸となって、教育内容や教育環境の充実・向上に向けて努力しなければなりません。

富山国際大学

第68回全国植樹祭「地域リレー植樹」 キックオフイベントを東黒牧キャンパスで実施



石井県知事より苗木を受け取る中島学長

平成29年度に富山県で行われる第68回全国植樹祭のプレイベント「地域リレー植樹」のキックオフ会場として東黒牧キャンパスが選ばれました。

平成28年4月23日(土)に、立山連峰を望む絶好の天気のもと「とやまの森づくりボランティア交流会」が開催され、本学に県内外ボランティア団体が集結しました。それに合わせ「地域リレー植樹」において石井隆一県知事から中島恭一学長にコナラヤクリなど500本の苗木が贈呈され、参加者で第1駐車場南側に植樹を行いました。

今回は、大学キャンパスの散策を通して環境教育に取り組む、にながわ保育園の親子50名もこのイベントに参加しました。午後には忠田環境サークル長が活動報告し、2006年から開始された大学の森林整備が、大学教職員・NPO・企業との協働事業へと発展した10年の歩みを紹介しました。

富山短期大学

選挙投票の意義、議会の役割や議員の活動を学びました

平成28年5月11日(水)、教養総合科目「現代社会と人間」の授業の一環として、富山県選挙管理委員会、富山県議会事務局、富山県議会議員の方々を講師として、投票の意義、選挙の仕組みと議会の役割・議員の活動について講義をしていただきました。

第一部は、「投票の意義、選挙の仕組み」という演題で講義をしていただきました。「選挙権年齢が18歳に引き下げられることにより、皆さんも有権者になります。選挙に行って、若者の声を届けましょう。投票前には情報を収集して総合的に判断して、投票をしましょう。」と呼び掛けられました。

第二部では、富山県議会事務局の方から、議員の定数と選挙区、議会のしくみ、役割等について、講義をしていただきました。その後、富山県議会の宮本光明議員、火爪弘子議員、奥野詠子議員、平木柳太郎議員から議会と議員の関係、議員活動の紹介をしていただきました。投票・議会のことを議員の方々から直接お話を伺える機会があったことは、学生達にとって貴重な体験でした。



富山国際大学附属高等学校

台湾から104名が来校



4月20日(水)に台湾の精誠高級中学(中高一貫校)から生徒96名、校長とPTA会長を含めて合計104名が本校を訪問されました。県観光課の要請を受けての受け入れでしたが、他の高校では困難なので、本校に白羽の矢がたったのだらうと思います。本校も姉妹校などの相互訪問の経験は豊富にありますが、これほどまでの大人数を受け入れたことはなく、1日だけとはいえ、準備にはかなり工夫をこらしました。

互いの第二言語である英語でコミュニケーションを図りながら、学校紹介、スポーツや文化など様々な交流を行い、校長以下全員が満足して帰られました。本校の生徒は主体的に受け入れ活動をしており、着実にグローバル人材の芽は育っています。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

大自然の中でいっぱい遊んだよ！

年長になって最初の探検、「トントン探検隊」に行ってきました！目的地は立山青少年の家です。まずはトントンの森の探検です。暑い日だったのですが、森の中は木陰がいっぱいで涼しく感じました。またいろいろな発見があり、スタケを採ったり、クロモジの木の枝の香りを嗅がせてもらい「リンスのおいだ！」と驚く子どもの姿も見られました。

午後からは前沢谷の沢登りです。雪解け水は冷たく、はじめは一步沢に足を入れるだけで「うわあ〜」「つめた〜い」と声を上げていましたが、しばらくすると慣れてきてゴールしたときには、全身ずぶ濡れの子どもがほとんどでした。この大自然の中ならではの体験は、子どもたちにとって心にも身体にも貴重な思い出を刻んでくれたと思います。

